

「第1回農村RMO伴走者育成講座」

～人口、農業就業者推計・シミュレーション研修～

令和5年度の本講座は2回予定しており、農村RMOの形成を目指すそれぞれの地域での現状分析や話し合いを効果的に進めるための手法等のスキルを身につけてもらい、「農村RMO伴走者」となる人材育成を目的としています。

第1回

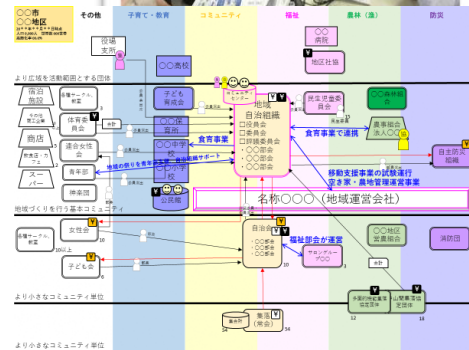
- ①人口、農業就農者の現状把握から将来の人口分析、予測シミュレーション
- ②定住状況や人口安定化に必要な定住増加目標を設定
- ③地域の構造と問題点を抽出

県内で農村RMOモデル形成に取り組んでいる2地区(富山市黒瀬谷地区、氷見市速川地区)で、「地元関係図」「地元天気図」ワークショップを開催(10月頃)

- ①2地区のモデルを活用したケーススタディ
- ②地域が目指す将来の姿とその実現に向けた具体的手法
- ③全国の事例紹介

まずは、市町村毎に地域の人口ビジョンを関係者間で共有するところから話し合いを始めましょう。

「地元関係図」



令和5年8月18日(金)13:00～16:00

会場 富山県農業総合研究所(富山市月岡新296番地)

講師

一般社団法人
持続可能な地域社会総合研究所
所長 **藤山 浩 氏**



1959年島根県益田市生まれ。82年一橋大学経済学部卒業後、広島大学大学院国際協力研究科などを経て、98年島根県中山間地域研究センター研究統括監就任。17年3月に同センターを退職、一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所を設立、所長就任。著書に「田園回帰1%戦略」、「循環型経済をつくる」、「人口ビジョンをつくる」、「小さな拠点をつくる」(農文協)など。

対象者

富山県内の市町村及び県職員等中山間地域振興に関わる行政職員、NPO法人等

持参物

市町村毎に1台ノートパソコンをご持参願います
(事前に研修データを送付予定)

プログラム

- ◆ 講座
 - 一人口・農業就業者推計・シミュレーションについて解説
 - 一全国の事例紹介
- ◆ ワークショップ
 - 一地域が目指す姿と就農・定住目標
- ◆ 発表

申込期限・申込方法

令和5年7月28日(金)までに下記担当までお申し込みください

問い合わせ

富山県農林水産部農村振興課
担当 河西・舂崎
TEL 076-444-9011
E-mail:tomoko.masuzaki@pref.toyama.lg.jp

令和5年度 富山県農村RMO伴走支援事業

「農村RMO伴走者育成講座」

なぜ今、「人口、農業就業者推計シミュレーション」が 必要なのか

一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所

令和5年6月

「人口、農業就業者推計シミュレーション」って何？

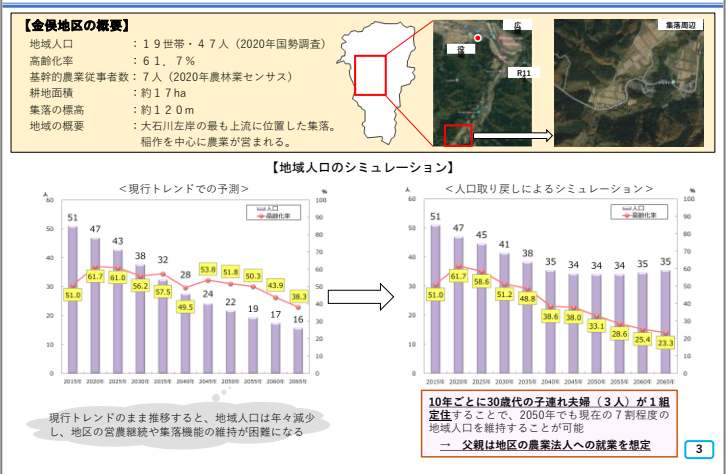
5年前と現在の比較から得た男女・5歳刻み年代別の人口増減率(コホート変化率)、現在の合計特殊出生率、生残率などから将来の人口(農業就業者)の推移を予測することを**将来人口(農業就業者)推計**と呼びます。

そして、**人口(農業就業者)推計シミュレーション**とは、人口が将来にわたり減り続けることなく一定の人口規模で安定化するために、

現行の将来人口推計の傾向をそのまま受けながらも、**今後どの年代・性別を何人転入(増加)させるべきか(または転出を食い止めるか)＝定住目標**を専用のプログラムを用いてシミュレーションすることをさします。

実践事例

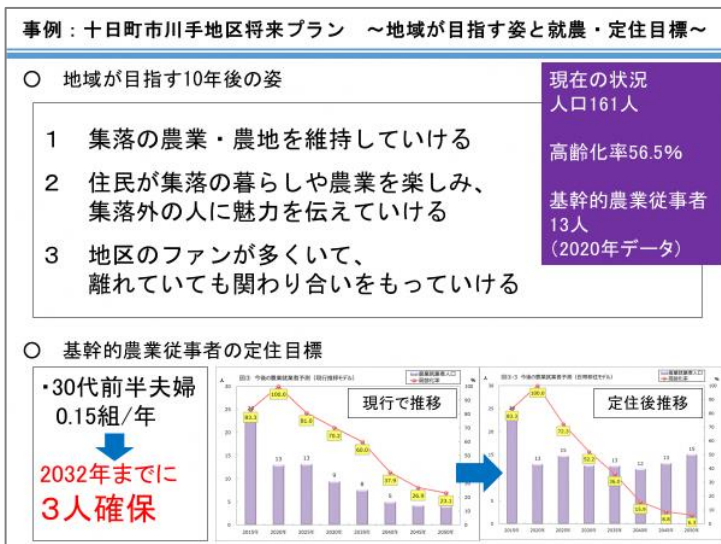
ビレッジプラン取組地区の例(関川村金俣地区)



人口推計シミュレーション事例(新潟県関川村金俣地区)

この研修では、一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所が独自開発した**人口推計シミュレーションプログラム**を用いて、**県内各市町村の地域(旧村単位)の定住目標**を定めるプロセスを実践します。

「人口、農業就業者推計シミュレーション」の実践がなぜ必要なの？



定住目標と将来プラン策定事例(新潟県十日町川手地区)

富山県では全県をあげて農村RMO事業を推進しておられると思います。この農村RMO事業において、はじめの一歩として大切なのは、その地域が実現したい将来の姿を、関係者間で共有することです。

その際、根拠に基づいた具体的な目標を地域の仲間と一緒に作り、共有してはじめて、次に何をどうすればその目標を達成できるか、具体的な実施方法や内容を検討することができます。

人口推計シミュレーション研修で、皆さん自身が地域住民の立場に立って、定住目標や将来プラン(地域が目指す将来の姿)について、考えてみましょう。

この研修を通して、地域に農村RMO事業を展開する際の具体的な手法を学んでいただければ幸いです。